

令和6年能登半島地震 災害対策ニュース

就労者の移動手段で大型バスも検討

応急仮設木造住宅の建設に向けた動き

応急仮設住宅の建設については、平時とは異なり不確定要素が非常に多い取り組みとなります。しかも今回の災害地域は半島という地理的制約もあるため、従来の災害対応とは大きく違うことも特徴です。

こうしたことから、大工工事の開始時期が当初想定より後ろ倒しとなってしまいましたが、課題解決に向けて全力で対応を図っていますので、労働者供給事業の実施に向けて、引き続きのご理解・ご協力を宜しくお願いします。

《生コンの必要量確保が難航》

全木協の応急仮設木造住宅は、災害公営住宅への転用を前提としているため、ベタ基礎となります。しかし、旺盛な復旧需要により、ベタ基礎で使用する生コンの必要量確保の見通しが立っておらず、そのため、工程表作成が困難な状況となっています。

輪島地域には8カ所の生コン工場がありますが、1月末時点で通常通りの稼働は4カ所のみであり、また、生コンの運搬時間は品質維持のため原則として90分としており、遠方からの運搬が困難ということも要因の一つとなっています。

生コン不足については、石川県や国土交通省とも情報共有をすると共に、業界団体などへの働き掛けも行っており、早期に必要な量の確保が可能となるよう努めていきます。

砕石についても入手が容易ではない状況ですが、全木協としては確保の目途が立っている状況です。

《4カ所で300戸を超える見込み》

全木協が石川県から示されている建設候補地は、輪島市で4カ所（うち1カ所は石川県木造住宅協会が対応予定）、珠洲市で1カ所となっています。候補地5カ所の内、4カ所で建設する場合、現時点での総戸数は300戸を超える見込みとなっています。

現状において最も建設戸数が大きい輪島市の仮設団地は180戸程度となっており、まずは40～50戸を1期工事として先行着工し、時期を1～2週間程度、間隔をあけて2期工事として120～130戸を建設する方向で調整を図っています。

この場合、同団地で必要となる大工数は1日220人前後となり、同時期に他の仮設団地においても着工する場合、1日300人以上の大工が必要となります。全建総連として1日あたりの大工の最大供給実績は、2020年の熊本豪雨での300人弱でしたので、今回は過去最大となる可能性があります。

《初の2階建ての仮設住宅建設へ》

輪島市をはじめとした能登半島北部は、応急仮設住宅の建設に適した用地が少ないこともあり、石川県は全木協に対して、より多くの応急仮設木造住宅の建設が可能となるよう、早い段階で2階建てでの建設の意向を示していました。

1月31日の県庁との打ち合わせでは、2階建ての平面図を提示し、一部指摘はあったものの、全体的には特に問題はないと回答があったところです。

2階建ては、6坪のメゾネットタイプ（内階段）で1階6坪（トイレ、ユニットバス、LDK）、2階6坪（2室）の計12坪程度となります。

今後、被災自治体の意向も踏まえて、各団地における2階建ての比率を決定していくこととなりますが、団地によっては半数程度、小規模団地では全戸が2階建てとなる可能性もあります。実際に建設する場合は、全木協としては初めての2階建てとなります。

《就労者の仮設現場までの移動方法》

現在、建設が想定される輪島市は、金沢駅から110キロ以上、移動時間は片道2時間半程度以上の見込みとなっています。

こうしたことから、就労者の休息時間確保と通勤災害防止のため、金沢駅周辺の宿泊施設から仮設団地までの移動については、大型バスをチャーターし送迎することを検討しています。

この場合、就労者は初日に仮設団地へ各自の車で移動し、以降は仮設団地内に車を停め置いて道具類を保管。車内での保管が困難な場合（軽トラックなど）は、仮設団地内に設置した倉庫に道具類を保管していただくことも検討しています。

一方で、就労者から道具類を手元に置いておきたいとの意向もあることから、その場合は各自の車で日々移動いただくこととなります（日々の県内交通費4200円程度は支給）。

また、自己責任による車中泊などの選択肢についても対応策を検討しています。

令和6年能登半島地震による被害等の状況について（危機管理監室）



【第79報 令和6年2月5日14時00分現在】

連絡先：危機対策課
(076-225-1482)

1 被害の状況（人的・建物被害）

市町名	人的被害(人)					住家被害(棟)					非住家被害(棟)		
	死者	行方不明者	負傷者		小計	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	小計	公共建物	その他
			重傷	軽傷									
金沢市				9	9	4	1	4			4		1
七尾市	5			3	8	1	2	0			1	8	5
小松市				1	1	1	4	3			1		
輪島市	10	3	確認中	2	6	2	8	0			2		
珠洲市	10	6		4	3	2	9	3			6		
加賀市						7	2	2			1	3	2
羽咋市	1				7	2	1	2			2	6	9
かほく市							1	1			1		4
白山市				2	2			2			2		
能美市						1	9	5			8	9	
野々市市				1	1			2			2		
川北町								1			1		
津幡町				1	1		1	3			1		
内灘町				2	2			4			4		
志賀町	2			7	9		5	1			5		2
宝達志水町								8			8		1
中能登町				1	1		2	3			2		
穴水町	2			3	2		2	8			2		
能登町	8	6		1	2		5	0			5	2	4
計	24	15		3	1		5	2	6	5	5	1	7

※ 災害関連死：震災による死者数以外で、震災後に災害による負傷の悪化または身体的負担による疾病のため死亡したと思われる死者数（市町が判断したものを計上）
 ※ 安否不明者：（2月5日14時時点）11人（輪島市9、珠洲市2）